

明石（あけし）の松明【8月24日】

毎年行われる、明石の松明に今回、私たちも参加させていただきました。

宇津地域はその中でさらに6つの集落に分かれていて、明石はそのうちの1つです。

明石の松明は毎年、8月24日に行われます。明治の最初からあったことははっきりしているようですが、もしかしたら江戸時代末期あたりから続いているかもしれない、と明石在住の岡本さんは説明してくれました。それほど伝統のある祭りということです。

従来、家ごとに1月から12月まで1本ずつ、松明を作っておきます。それを背丈ほどの竿に取り付けて、家の前の道路側に並べてあげます。それに加えて、各戸で4~5メートルほどの高い竿に、神様に向けてあげる松明を作り、さらには三輪神社に置く松明も作ります。つまり、各戸で14本ずつの松明を作ります。家で不幸ごとがあった年には火が良くないといって、松明を上げません。現在、明石には18軒の家がありますが、今年も、すべての家が参加できたわけではありません。また、松明に使う松を事前に山へ取りに行ったり、割ったり、松明を作ったりという作業が高齢者には負担になり、近年は祭りの規模が縮小してきているとのこと。

30年ほど前までは、三輪神社に奉納した松明が燃え尽きたころからお楽しみの始まりで、子ども達が金魚すくいをしたり、鮎つかみをしたり、つかんだ鮎をその場で塩焼きにしてみんなで食べたりと、それはにぎやかだったそうです。地域の方は誰でもが盆踊りの音頭をとることができ、踊ったり遊んだり夜中の12時を過ぎても続いて、その日ばかりは地域の子も大騒ぎしながら夜更かしをして、楽しい時間を過ごしたのだそうです。

松明が並びあげられるのを間近で初めて見たのですが、道路に並ぶ松明の炎の光がとても美しく、感動しました。



その後、三輪神社を参拝させていただきました。三輪神社は山裾にある鳥居をくぐると、数十メートル先にご神木の杉の木を囲う玉垣があるだけで、神殿も社務所もないシンプルな社です。

以前、女性がお参りをしたときに鳥居の奥に大蛇がいて追いかけてきた、という言い伝えがあり、しばらくは女人禁制とされていましたが、現在ではそれは迷信だということになっているようで、この日は女性の私たちも入らせていただきました。

貴重な経験をさせていただきました。今日の体験はきっと忘れないと思います。

来年は、この伝統ある祭りを維持していくために、準備や運営に私たち学生が少しでも尽力できればと考えています。